

西米良村に古くから伝わる語りや偉人の格言には、ずっと語り継いでいきたい、人生に大切な言葉がたくさん含まれています。  
村上三絃道が音楽の調べにのせて、いつまでも残って欲しい西米良村の唄たちをご紹介します。

平成の桃源郷

# 西米良村

西米良村伝承 風の唄 土の唄より3曲をご紹介します。歌詞は裏面をご覧ください。

にし め ら おん ど  
西米良音頭

ハアー 春は登ろうか 米良三山に 市房石堂 それ天包み  
峰にや名代のアケボノつつじ 参る児原も春霞 トコサイトコノヨイヤサノサ  
ハアー 夏は招くよ あの尾根づたい 杉に桧にそれ松林  
見事仕立てた西米良意気地 遠いせせらぎ鮎の里 トコサイトコノヨイヤサノサ  
ハアー 秋はさぎりの あの谷あたり 萩にすすきにそれあの紅葉  
もゆる思いを水面にうつし 抱いてくれたかアーチダム コサイトコノヨイヤサノサ  
ハアー 冬は参ろうや あの夜神楽に 笛に太鼓にそれ鈴の音よ  
星のふる夜に豊年祈りや 昔菊池の血も熱い トコサイトコノヨイヤサノサ

\*昭和43年に実施された明治100年記念事業の一環として西米良村歌とともに制作されました。歌詞は一般公募で中武  
武明氏のものが採用になりました。その後、当時、西米良中学校に在職していた教諭の計らいにより、日本レクリエー  
ション協会が推薦する音頭としてレコード会社が編曲し、現在の西米良音頭として定着しました。

め ら かぐ ら ばやし  
米良の神楽囃子

トコサイトコノヨイヤサノサ 今夜一夜はお許しなされ  
貴女百まで わしゃ九十九まで ともに白髪のノ 生ゆるまで《ホイホイ》  
トコサイトコノヨイヤサノサ あの娘良い娘だ わし見て笑た  
風にかすむは祭りの笛か 遠い昔がノー 懐かしや

\*神楽の際に、客席で歌われたのが「神楽せり唄」。西米良では「神楽ばやし」と呼ばれています。小川地区、村所地区で歌  
われているそれぞれに異なる「神楽囃子」をメドレーにしています。

たけ はら ぼん おど うた  
竹原の盆踊り唄

盆の十四日にや ささげの煮干し《チョイトチョイトチョイトチョイトチョイト》  
色は黒かれのう 味や良かれ《ヤットコセーノ ヨイヤサノサ》  
一に朝顔 二に杜若 三に下り藤 四に獅子牡丹  
五つ市房千本桜 六つ 紫色よく染めて  
七つ南天花 八つ八重桜 九つ小梅に散らした牡丹  
十で殿様鷹の羽御紋 十で殿様鷹の羽御紋

\*竹原地区の盆供養で歌われている「盆踊り唄」。「盆の十四日は、ささげの煮干し、色は黒いが味よかれ」の歌詞の「ささ  
げの煮干し」とは、ささげ豆を使った西米良独特のスイーツのことです。